

講義余聞

先生の趣味・特技

法学部

折田正樹 教授

世界的バレリーナ、 吉田都さんの後援会長

ある日の夕暮れ、折田正樹先生を研究室に訪ねた。専門書が並ぶ書棚とは違って、デンとテーブルの上に置かれてあったのは、分厚い写真集だった。そこに紹介されているのは、

日本が生んだ世界最高峰のバレリーナ、吉田都さん。英国ロイヤル・バレエ団で最高位のプリンシパルとして活躍、紫綬褒賞、大英帝国勲章OBEを受賞した日本の至宝だ。

先生は、そのページをくりながら、

「私は吉田都さんの後援会長をしています」とにこやかに話し始めた。

◇『白鳥の湖』に感動◇

折田先生が、バレエに興味をもつたのは、イギリスのオックスフォード大学で勉強中に見に行った『白鳥の湖』に感動したからだ。日本では、白鳥の群の端は、そこにいるだけのような存在であったのに、イギリスで見たバレエでは端から端

まで、とても美しく、その美しさに驚かされた」という。

バレエに興味を持つうちに、ロンドンでのロイヤル・バレエ団の『ロミオとジュリエット』の公演で、ジュリエット役を演じる吉田都さんを知った。「日本人がジュリエット役をやっていることに驚きました。そして吉田さんの頑張りにも本当に感動させられました」。これが折田先生と吉田さんとの出会いだった。

◇プリンシパル吉田都◇

9歳から東京でバレエを始めた吉田都さんは、10代の時に単身でイギリスへ行った。小柄な日本人の体格の問題を抱えながらも、1983年にローザンヌ国際バレエコンクールでローザンヌ賞を受賞し、英国ロイヤルバレエスクールに留学。その後、頭角をあらわした吉田さんは、1988年にサドラーズ・ウエルズ・バレエ団（現バーミンガム・ロイヤル



元駐英大使の折田先生



吉田都さんの写真を手にして語る折田正樹教授

ル・バレエ団)のプリンシパルに昇格、1995年にはロンドンのロイヤル・バレエ団に移籍した。

折田先生と吉田さんとの交流は、

先生が駐英大使(2001年9月)から駐米大使(2004年10月)だった2002年からはじまった。吉田さんの結婚披露宴でも、スピーチをしたほど親し

い仲だ。

バレエの魅力について先生は、「音楽・舞台・衣装のすべてが綺麗。舞踊の中で一番綺麗だと思う」と話す。吉田さんが、数年前から公演の拠点

を日本に移したこともあり、先生は、「吉田さんに頼んで、中央大学で異文化交流の話をしてもらいたい」と期待している。

◇ヘッパバーンにも会う◇

折田先生は、ほかにロンドンを中心に欧州で活躍している世界的なピアニストの岡田博美さんの後援会長であるとともに、同じくロンドンで活躍しているピアニスト兼作曲家の平井基喜さんの後援もされている。

「自分で歌ったり、踊ったり、演じたりするわけではありませんが、クラシック音楽や舞台を鑑賞するのは大好き」で、舞台はオペラ、シエークスピアからミュージカルまで世界中で鑑賞してきたという。「これまでも、オードリー・ヘッパバーンやジュー

リー・アンドリュースともお話をしたことがあります」と言って、先生は表情をくずした。

◇異文化交流にも力注ぐ◇

「様々な分野で人と会うことが好きなんです」という先生は、「心を通わせることで、お互いの仲を深めたい」と異文化交流にも力を注いでいる。11月10日には、中央大学で日蘭平和交流会を開き、かつてインドネシアで戦争時に被害を受けたオランダ人との相互理解につとめた。

旅行も大好きで、これまでに70カ国も訪問。グリーンランドやアイスランド、フェロー・アイランド、ジャージー諸島、マジョルカ島など、日本人があまり行かないところも訪ねたが、「最近では週末に、オペラの名曲や中大の応援歌を聴きながら伊豆まで車を飛ばすのが精一杯でしょうか」と笑った。

(学生記者 田中祐美 法学部3年)